

第5回慰霊塔(碑)のあり方検討協議会 議事要旨

<開催>

日時:平成26年2月13日(木)10:00~11:15頃

場所:県庁舎1階 共用会議室

<出席者>

No	団体名	職名等	氏名	備考
1	沖縄県 福祉保健部	福祉企画 統括監	金城 武	会長
2	一般財団法人 沖縄県遺族連合会	理事	宮城 篤正	
3	公益財団法人 沖縄県平和祈念財団	事務局長	上原 兼治	
4	沖縄県立第二高等女学校 白梅同窓会	会長	中山 きく	
5	沖縄県立沖縄工業高等学校 同窓会	会長	【欠席】	代理 副会長 渡嘉敷 真盛
6	(糸満市)真栄平自治会	区長	仲吉 勇	
7	一般社団法人 うちなーサホーとうーとーとー沖縄	代表理事	仲田 英安	
8	糸満市	社会福祉課長	稲嶺 盛和	
9	浦添市	福祉総務課長	與古田 達郎	
10	与那原町	住民課長	青田 治夫	
11	沖縄県環境生活部	平和・男女共同 参画課長	山城 貴子	
12	沖縄県福祉保健部	福祉・援護課長	伊川 秀樹	

<議事概要>

1 協議事項

- ・ 平成 25 年度慰霊塔(碑)のあり方検討協議会にかかる意見集約案について
(事務局から、前回の協議会において話し合われた意見を踏まえて修正した委員意見集約案を報告)
(委員意見集約案を一通り報告した後に、委員から意見を確認することとした)

【資料2について】

(事務局)

- 資料2「平成 25 年度慰霊塔(碑)のあり方検討協議会」の前回からの修正点について説明。

(上原委員)

- ・ 1ページ目の 28 行から 29 行にかけて、「46 都道府県のうち、45 の都道府県が」と記載があるが、あと1つの都道府県はどこになるのか。
- ・ 1県だけ除かれているのは気になるので、なんらかの記載した方がいいのではないかと。

(事務局)

- ・ あと1県について、手元の資料では確認できないので、後ほど確認のうえ、記載したいと思う。
- ・ この部分の記述では、沖縄が本土に復帰する前の昭和 46 年までの状況においても、各団体の慰霊塔建立への思いは熱く、後を絶たない状況で各県・団体等は慰霊塔を建立していったことを述べたかった。

(上原委員)

- ・ 新潟の塔が昭和 50 年代に建立されているので新潟の塔が該当すると思われる。括弧書きでもいいので、後ほど追加記載していただきたい。
- ・ また、3ページ 93 行目以降で、慰霊塔の団体ごとの分類が記載されている。
- ・ 各団体は、自分達が管理している慰霊塔がどの分類に属しているか気になると思うので、どの慰霊塔がどこに分類されているのか掲載する必要があるのではないかと。

(事務局)

- ・ 以前、管理がなされていない塔の名称が新聞で報道された際に、塔を管理している団体の方から強い苦情があった。
- ・ 塔の管理団体としては、「管理がなされていない」とされるのは心外であるとの意見であった。
- ・ そういう経緯もあり、具体的な塔の名称は載せていない。

(金城会長)

- ・ 慰霊塔の管理がなされているか否かは、どういう基準で判断しているか。

(事務局)

- ・ 慰霊塔の個別の調査については、各市町村に現場の状況を確認していただいたうえで回答をいただいている。
- ・ 管理がなされているか否かは、市町村の現場の状況確認による。

(中山委員)

- ・ 男子の学徒隊の慰霊塔については、開南や師範健児を除いて、ほぼすべての同窓会は現在学校が存続しているので、問題ないと思われる。
- ・ 女子のひめゆり以外は、今後長く管理していく体制になく、将来的な管理が心配である。
- ・ 白梅同窓会では、白梅学徒隊が戦争中にたどった場所に案内板を設置するなどの取り組みを続けている。
- ・ また、現役学生との交流を進めるなど、塔の継承に向けて取り組んでいる。

(金城会長)

- ・ 現在は管理ができているが、将来的には管理が困難になる可能性がある塔についても、一つの課題としてこの意見集約に盛り込む必要があるかと思う。

(中山委員)

- ・ また、白梅の塔の土地は、国吉集落の土地であり、無償で貸していただいている。
- ・ 私達は、地域との交流を深めるため、国吉集落の方も慰霊祭に招待して出席してもらっている。

(金城会長)

- ・ 地域との連携を深めることにより、一つの対応策になっていることも考えられる。
- ・ この委員意見集約(案)においても、一つの解決策として、地域との連携についても記載する必要があると思う。

(上原委員)

- ・ 中山会長の白梅同窓会はかなりうまく管理できているほうだと思う。
- ・ このやり方を継続していけば、そのまま継続管理できると思う。
- ・ 周辺には山形の塔や真山の塔もある、また、少しはなれたところにバックナー中将の碑もある。
- ・ 周辺一体を含めて、一緒に管理するという方法もあるかと思う。
- ・ 近くの慰霊塔へのアクセス道路は道が狭い状況にあり、拡幅する必要がある。
- ・ この辺を糸満市や県の協力をいただいて、道路を拡幅して欲しい。

(中山会長)

- ・ 白梅の塔の前の道路も損壊している、糸満市に道路を早くなおして欲しい。

(稲嶺委員)

- ・ 糸満市にという意見もあるが、これは糸満市だけで解決できる問題ではない。
- ・ 5ページに、国の責任に関する記述がある。
- ・ 市道の補修は、糸満市がやることになるかもしれないが、国、県の補助金等の財源的な支援があってはじめて実現する問題なので、ぜひとも「戦争における国の責任」を強調する必要があると思う。
- ・ 他に気になったのが、2ページの(6)で平和学習の実施などの記述があるが、説明版が設置されているところとないところがあるので、一括交付金などの財源を活用して、説明版が設置されていないところは一気に設置するなどの取り組みも必要かと考える。
- ・ 今の時点では個人的な意見であるが、役所に持ち帰って検討していきたい。

(宮城委員)

- ・ 糸満市から意見があったように、国の責任を明確にするのは大賛成である。
- ・ 今、厚労省が日本遺族会に委託して、海外の慰霊塔の整理事業や遺骨収集を実施している。
- ・ 我々遺族会は、沖縄も対象区域に含めるよう要請しているが、なかなか実現しない。
- ・ また、参議院の水落議員が日本遺族会関係者として委員長をしている。
- ・ 遺骨収集も大事であるが、慰霊塔も大事であり、海外だけではなく沖縄も対象に含めるよう、水落議員をとおして国に要請していきたい。
- ・ 今のうち要請していかないと、今後、沖縄県に責任を負わせられる可能性もあるので、県としてもぜひ要請していただきたい。

(上原委員)

- ・ 糸満市や遺族連合会からも国の責任の話があったが、5ページの181行目の文面について気になる点がある。
- ・ 表現として、「対応を要請することも検討する必要がある。」としている。
- ・ 言い回しが二段三段と長くなって、気持ちが遠のいている感じがする。
- ・ 県としての立場もあるかもしれないが、ここは、「対応を要請する。」として整理してもいいのではないかと思う。

(宮城委員)

- ・ 確かに、これでは表現が及び腰になっている感じがする。

(事務局)

- ・ 今年度については、方向性を示して、次年度は具体的に国には何を要請するのか検討すると考えて記載した。
- ・ 確かに、委員のご指摘のとおり「及び腰」な文言であるので、その辺は修正していきたいと考えている。
- ・ もう一点、具体的に案内版を設置する、道を拡幅するという意見もあったが、これも具体的な内容であるので、次年度以降の内容になるかと考えている。
- ・ 今年度は、慰霊塔のあり方の大きな方向性を検討するという中で、「短期的な対応」、「長期的な対応」という内容でまとめさせていただいた。

(渡嘉敷委員・沖縄工業高等学校同窓会会長代理)

- ・ 工業高校は、設置されて 110 周年を迎えた。
- ・ 私も何年か前から同窓会の役員をさせてもらっている。
- ・ 毎年、6 月 23 日の慰霊の日には、工業健児の塔の前で慰霊祭を開催しており、学校の先生方にも協力してもらっている。
- ・ しかしながら、学校側の先生方も人事異動で人が頻繁に変わる状況にあり、協力を得るのも難しくなっている。
- ・ 学校車のバスを貸してもらったりするが、別件で使用する予定があるなどの理由により、学校側から貸し出しを渋られることもある。
- ・ そういうことを踏まえると、3ページ目の 107 行目に「後継者の確保・育成」とあるが、それも難しい。
- ・ 先ほど意見のあったように、国の責任が一番大きいと思う。それに対して、県がどれだけ国に要請しているかということが問題になってくると思う。
- ・ そういうこともあって、学校が難しければ、国・県が補助金なり援助金なりを出して、継続しましょうという話が一切見えていない。
- ・ 慰霊祭の開催などは、役員としても予算を確保して継続しなくてはならないと考えている。
- ・ 毎年、慰霊の日には、一日中線香をたやさないように努力している。もっと簡略化してもいいのではないかという意見もあるが、私としては、それでは亡くなった方々に申し訳ないと思う。
- ・ 大きな責任は国にある。国が支援金などを出すべきだと思う。
- ・ もう一点は、工業健児の塔の裏に避難ガマがあるが、そのガマについて、どのような調査が行われたか平和祈念資料館に確認したところ、調査されていないとのことだった。
- ・ これは行政の怠慢ではないか。
- ・ 戦時中、工業高校の学生は、通信隊として、摩文仁のガマからバッテリーを取りに行くために命を懸けて豊見城の海軍司令部まで走って取りに行き通信をしたという話もある。
- ・ 慰霊塔の維持ができないからやめようというのは、がんばってきた方々に対して申し訳ない。

(上原委員)

- ・ 平和祈念財団で運営している遺骨収集情報センターが、昨年度に糸満市内のガマの未収骨状況について調査を行っている。
- ・ その調査の中で、工業健児の塔の近くにあるガマも調査している可能性があるので、確認して連絡したい。
- ・ また、案内板について、中山委員から意見があったが、我々も案内板の設置は必要であると考えている。
- ・ 以前、仲田委員から QR コードについてのアイデアがあったので、当財団としても QR コードを使った説明版を設置しようということになり、摩文仁の平和の丘と島田知事の島守の塔などに簡易的な説明版を設置した。
- ・ 今後は、我々が管理しているすべての塔に設置できるように準備を進めているが、対応するデータの準備が難しい。最小限の情報だけでも残していきたいと考えている。
- ・ 先ほどから国の責任について意見があるが、国で対応できる場合は、もっと立派なものを設置したいと考えている。

(仲田委員)

- ・ 上原委員から出た QR コードについてですが、小さくて設置しやすいのはメリットであるが、我々が管理している師範健児の塔の団体が解散したので、土地の所有が誰のものかわからない状況であり、説明版を設置していいのか、困っている。
- ・ また、QR コードの説明内容については、ちょっとした PC があれば、すぐに作成できるものではあるが、我々が作成すると、我々の思いだけで書いてしまってもいいのかと疑問にも思っている。
- ・ こういう塔が県内にいくつかあることを考えると、土地の所有者を含めて、県内全体の塔を調査してもいいのではないかと思う。

(金城会長)

- ・ 現在は管理ができているが、色々な課題があるということも記述する必要があると思う。
- ・ あと、仲田委員から意見のあった、詳細調査についても、事務局から意見があればお願いしたい。

(事務局)

- ・ 今年度は一定の方向性をとりまとめて、次年度は具体的な内容をとりまとめたいと考えている。
- ・ それらを踏まえて、次年度以降に具体的な対応策が見えてきたら、財源の確保なども含めて検討していきたいと考えている。
- ・ 現時点では、大きな方向性しか見えていない状況であり、次年度以降の具体的な内容において、詳細な調査が必要であれば、調査を実施するということ考えている。

(渡嘉敷委員・沖縄工業高等学校同窓会会長代理)

- ・ かりゆし長寿大学というものが石嶺にあり、私も卒業生である。
- ・ 以前、大学の同窓生に慰霊塔の現状を伝えて、清掃活動をしようということで声をかけて清掃を行った。
- ・ 70歳から80歳の高齢の方もいっぱいいるが、そういう形で呼びかけをすれば、協力してくれるところはいっぱいある。

(上原委員)

- ・ 5ページの159行に、「慰霊塔の移転・集約をすることにより、塔の実情を知る機会になる」とあるが、塔の実情と言うは違うじゃないかと思う。
- ・ 塔の実情ではなく、むしろ、塔にまつわる背景、慰霊、平和発信に資する内容だと思う。

(事務局)

- ・ おっしゃるとおり、塔の実情というよりは、塔に込められた思いとか、背景になると思うので、修正したい。

(中山委員)

- ・ 5ページに記載されているように、平和学習体験などの取り組みについては大賛成である。
- ・ 色々な戦争体験の話を聞いていると、ガマの中に入って明かりを消して避難していたなどの話があるが、私は戦時中一度もガマの中に入ったことがない。
- ・ 戦時中は、住民もガマだけではなく、藪の中にも隠れていた。
- ・ 人によっては、戦時中は全員ガマに隠れていたと誤解されるおそれがある。
- ・ そういうこともあって、私達は、来年度までに案内板を設置したいと考えている。ただし、一番困っているのは、案内板を設置するためのお金の確保である。
- ・ そういう活動に対して、なにか補助金があるか。

(金城会長)

- ・ これまでの意見でも、行き着くところは財源確保などに大きなポイントがあると考えられる。
- ・ これについても、国、県、市町村の役割分担も含めて、来年度以降、具体的に誰がどういう風にやっていくなどの議論を深めていきたい。

(仲田委員)

- ・ 以前、NHKの日本巡礼という番組で、高木さんという作家が、「慰霊塔に来ることによって、生きる力を得た。」とおっしゃっていた。
- ・ 過去のことを歴史として踏まえるだけではなく、知ることによって今をわかることにつながると感じた。
- ・ 慰問者の中には、慰霊塔には勇気をもらえる可能性があるのだなと感じた。

- ・ ひめゆり同窓会が修学旅行生に感想文を書いてもらうなどに取り組んでいる。
- ・ 慰霊塔への思いを考え直すことで、慰霊塔に込められた声を発せられる機会になると思う。
- ・ 次年度の検討会では、ぜひ、慰霊塔への思いの部分から何か検討できないか。

(事務局)

- ・ 今年度は一定の方向性を示して、次年度は、方向性を具体的に検討していくことを考えている。
- ・ そこで、委員がおっしゃるような「思い」については、次年度以降の具体的な検討の中で、話し合うことになるかと思う。

(金城会長)

- ・ 事務局から説明があったとおり、今年度は一定の方向性を示した上で、次年度以降は、その方向性を具体的に検討していくことになると考えている。
- ・ 本日、委員からいただいた意見については、この報告書に反映させたいと、再度委員に郵送等でお送りしたいと考えている。
- ・ そういうことも踏まえて、委員意見集約について、他に意見があればお願いしたい。

(渡嘉敷委員・沖縄工業高等学校同窓会会長代理)

- ・ 最後に一つだけお願いしたい。
- ・ 今後とも慰霊塔を維持するためには、財源だと思う。
- ・ 財源の確保について、国、県に対する要望は、この報告書には何一つ述べられていない。
- ・ 慰霊塔を管理するために、国、県からちょっとでもいいから、使ってくれということで財源を支援するという記述がないのはおかしいのではないか。
- ・ 慰霊塔は、勝手に建立して、勝手に管理しているわけではない。
- ・ 戦争を国が起こしてこういう状況になったというのは誰が見てもわかる。
- ・ 県の方も国に対してもっと要求して、慰霊塔を維持管理しているみなさんに、使ってくれということをもっと強調して、要求してもらいたい。

(金城会長)

- ・ 財源の確保というのは、課題であると受け止めて、重々理解している。
- ・ しかし、予算を確保するとなると、内部の関係部署との調整も色々ある。
- ・ これは、我々も行政として、必要な努力はしていきたいと考えておいる。
- ・ これらの課題については、次年度の会議で具体的に検討するとして、今日の協議会はこれにて終了したい。
- ・ 委員の皆様には、ご多忙のところ出席いただきありがとうございますとございました。

以上